

### 3 比爪—奥州藤原氏第二の拠点— ① 中核遺跡 <大莊嚴寺跡(1)>

大莊嚴寺は、比爪館の構成要素として、「政庁」、「御所」とともに造営された「寺院」です。奥州藤原氏の滅亡後も大莊嚴寺は存続し、中世を通じて、比爪館の故地である箱清水地内に所在し続けました。そして、大莊嚴寺は近世初頭に、盛岡城下建設にあたって盛岡市加賀野に移転させられ、比爪館故地における大莊嚴寺は途切れます。さらに、盛岡大莊嚴寺は明治初頭の廃仏毀釈で廢寺になっています。このように、比爪館故地からの移転と、廃仏毀釈による盛岡大莊嚴寺の廢絶によって、奥州藤原氏時代の大莊嚴寺の様相が理解しづらい状況になっています。(次号に続く)

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪—もう一つの平泉—』パンフレット8頁より—

## 《《《 5～6月行事予定のお知らせ 》》》

5月20日 (水曜日)	第62回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：金濱興一 テーマ：下河原訓導頌徳碑について1
6月14日 (日曜日)	第14回定期講演会	時刻 午後2時から午後4時まで (受付け午後1時30分から) 会場 紫波町赤石公民館 講師 羽柴直人氏 演題 未定(比爪館関係) 参加料 200円(会員外500円)当日受付け 参加申込み 5月31日までに、FAXで 019-676-3999 赤石公民館まで ※ 終了後、羽柴さんを囲む会を開催します。 (参加費 1,000円)

### \*\*\*\*\* 平成27年度定期総会 \*\*\*\*\*

平成27年度定期総会は4月12日(日曜日)に開催され、次の議案が提案のとおり承認されました。(⇒特記事項・提案内容)

- 1 平成26年度事業報告、決算 ⇒ 資料集(平成24・25年度の2年度分を登載)を発行、136頁
- 2 平成27年度事業計画、予算 ⇒ 紫波の歴史・文化連絡会に加盟、町観光交流協会主管「JR日詰駅からハイキング(7月11日～20日/比爪館跡・五郎沼一周)」に参画
- 3 会則の一部改正 ⇒ 住居表示変更、運営委員会・事務局関係規定の整備に係る改正
- 4 役員改選 ⇒ 役員(会長・副会長・監事・運営委員)全員再任、事務局長等も全員再任

### 紫波の歴史・文化連絡会が平成27年3月4日に設立!

目的 紫波町における、遺跡・古文書・伝承などの歴史遺産や郷土芸能の保存・顕彰活動をおこなう団体が交流し、情報および意見交換を行い、紫波町の文化振興に寄与する。

事業 ①町内の歴史・文化の周知を図り、情報を共有する。②文化財指定など文化振興のための課題解決を図る。③仮称「紫波町歴史文化資料館」の早期開館を促進する。④共催できる事業・イベントを企画し、文化振興に寄与する。⑤その他必要な事業。

☀ ☀ ☀ 比爪館跡の発掘調査 No.19 ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀

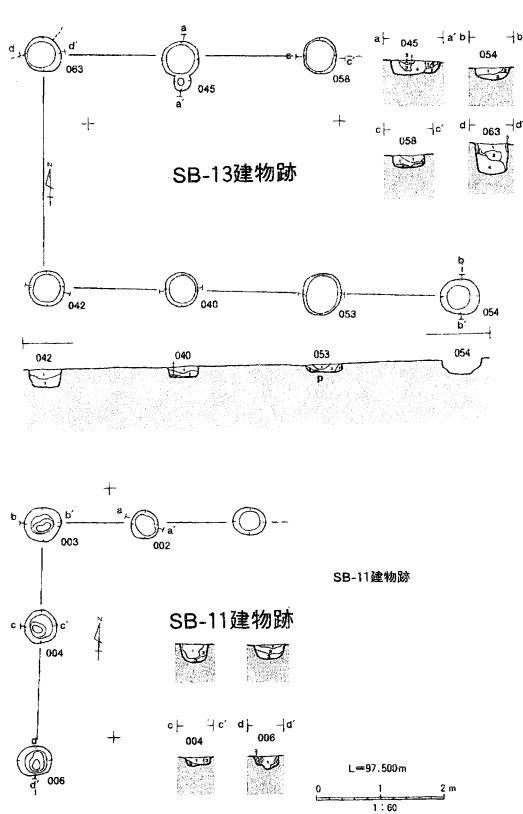
【第12・16・18次発掘調査(2)】 比爪館 第11～18次発掘調査報告書—赤石小学校施設工事関連—  
 <紫波町教育委員会(平成14年3月31日発行)>から

検出遺構 (18頁)

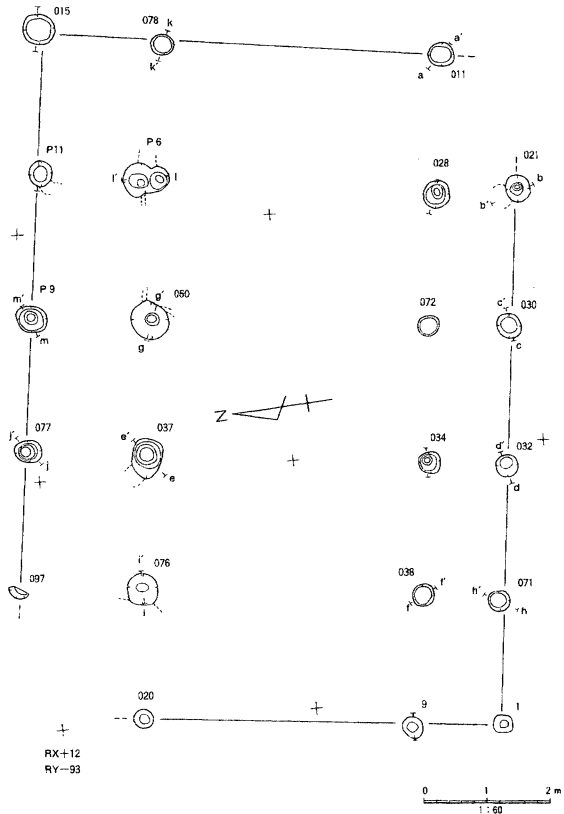
重機をもちいて50～60cmほどの表土を除去、その直下地山土上漸移層にて、落とし穴と思われる土坑、大溝、建物跡、井戸跡、多数の土坑、竪穴住居を検出した。その他、時期不明の小溝、小柱穴等の検出をみた。

1 建物跡

3棟の検出。いずれも調査区南東部分(第16次調査区)で見つかっている。いずれの遺構からも、明確にとまなうと判断できる遺物は出土しなかった。



第15図 SB-11・SB-13建物跡



第16図 SB-12建物跡

V まとめ (61頁)

2 建物跡について

第9・10次調査の建物跡は、そのほとんどが南北に伸びる棟方向となっていたが、第16次調査で検出された棟方向がわかる2棟は、東西方向にのびていた(残る1棟は方向不明)。また、従来の調査では、底がつくと思われる建物跡は西側に寄っていたが、今回の調査でも、より西側に1棟底付きの建物類例が増えている。

建物跡の柱穴に関して、従来は第9次調査で見つかっている5間×2間の建物(SB-02)のみが径80cm以上と大きく、他は30cm内外の小口径のものであり、今回も大きめの柱穴の検出は少なかった。ただし、1棟のみ(SB-12) 径60cm前後の柱穴を有しており、その平面形や深さ等もSB-02建物跡との類似が見られる。

細かい方位については、SB-11建物跡が2度、SB-12建物跡が6度、SB-13建物跡が1度、北からみてそれぞれ東に振れており、これについてはSB-12建物跡が10次調査の西端建物群とおおむね一致している。